東京「君が代」裁判原告団・「被処分者の会」　星野です。

　　PTA会長さんが尋問に立ってくれた！

07年度処分撤回請求・人事委員会第2回審理　傍聴者の声送ります。
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【2009・11・30】

＊卒業式19グループ（請求人処分時　向丘、北豊島工、赤羽商、江北、青井、葛飾野、江戸川）
＊証人尋問：村岡薫江北高校校長・松井昭夫江戸川高校校長…役職は当時

＊「PTA会長さんが質問に立ってくれたこと。そして何人かの生徒の起立を見て、とっさに、激励したいと思った気持を、PTA会長の挨拶の中に入れたという。そのことに感銘を受けました。」
  （原告）

＊「江北のPTA会長の方が、尋問されたことにビックリし大変よかったと思います。式当日の原稿を用意しながら、即座に話された内容にも心をうたれました。又、今日の話も堂々とされ、こういう方がPTA活動をしておられることは、教職員にとして、大変心強いことです。
　校長も、良心的な人だとは感じますが、退職しても、核心のところは言葉を濁されたのは仕方ないとは言え残念でした。T大学に職を得ているからでしょうか…。尋問は、尋ねたいことを明瞭に語られていて良かったです。」（原告）

＊「松井江戸川校長への尋問で、『職務命令体制を作り上げたいだけ』―というところは、土肥三鷹校長の裁判に出てしる『適正実施より、都教委の言いなりの学校を作ることの方を優先する』という、都教委の守谷前高校指導課長らの姿勢にそっくりだと思う。」（元教員）

＜ヒゲメモ＞
「今日も対照的な校長のお二人の証言でした。定年退前に校長を辞しされた、村岡校長は、誠実な人柄が苦渋の証言の一つひとつの言葉にも表れていました。最後に『もう、都立高校のことは忘れたい。現場を離れて解放されたと感じる。』と発言。『先生方の発言で励まされ、特別支援センターにも色々と発言してきたが、逆にうとまれる存在になっていた。』　慎長に言葉を選びながらも、ここ数年は、ひたすら多忙の日々で、『いついつまでに提出せよ』の書類に追われ続けて、管理職になってこういう学校を作りたいという思いは難しくなり、苦渋の退職の道を選ばざるを得なかった胸中も、請求人の尋問する校長へ声掛けの中で浮かび上がってきました。このような誠実な校長が、定年前にやめざるを得ない都立学校の異常な現状を全国の、教育関係者、保護者、市民に心から訴えたい。」

（請求人・代理人１５人　傍聴者２５人　心から感謝。　星野）

★今後の人事委員会審理です。傍聴支援よろしくお願いします。
　現在、東京の教育現場で一体何が起きているのかのぞいてみてください。

◎時間・場所　１３時３０分傍聴券配布　１４時開始
　　都庁第１庁舎北棟３８Ｆ　人事委審理室・都庁第１庁舎北棟３９Ｆ

●１２月２日（水）　卒１７グループ
証人尋問　農芸高校校長、豊多摩高校校長、羽村高校校長＊役職は当時
請求人処分時の学校　光丘、豊多摩、農芸、羽村、上水、昭和、立川、久留米